

記者会見概要

日 時 令和8年8月24日(月)

午後1時から

場 所 市役所3階 大会議室

発表項目

- 1 令和8年度9月補正予算(案)の概要について
資料1-1、1-2により説明
- 2 しきぶ温泉湯楽里あり方検討体制について
資料2により説明
- 3 ウェルビーイング指標について
資料3により説明
- 4 ユネスコ創造都市ネットワーク(UCCN)について
資料4により説明

その他配布資料

資料5 令和8年9月市議会定例会提出予定議案等一覧

質疑応答

Q

- ・しきぶ温泉湯楽里のあり方検討体制についてお伺いします。
- ・①現状維持、②機能の縮小、③機能の転換、④廃止という4つのシナリオについて、来年度中に方針を出すとのことでした。
- ・そのために、民間の力を使った調査費として、2か年で1,300万円の予算を計上しています。しっかりと予算をかけて調査する必要があるという点について、市長の考えを聞かせてください。

A

- ・2月1日に浴室のタイルが落ちて以降、しきぶ温泉湯楽里は休館しています。
- ・休館後、市内外の方から「湯楽里はいつ再開するのか」というお声をいただいております。本当に多くの方に利用されている施設であることを改めて実感しています。

- ・2月8日に市長に就任してから、福井県建築士会、福井県建設技術公社の専門家の方、さらには専門業者による詳細な調査を実施しました。思った以上に傷みが大きかったです。
- ・そこで安全を確保するため、女性浴場の大部分のタイルを軽量のパネルに取り換え、男性浴場の一部のタイルについては固定補強を行うとともに、屋根裏に換気設備の設置を行うとし、6月補正予算に約 4,500 万円を計上しました。現在、12月の営業再開を目指して工事を進めております。
- ・しかし、今回の対策は浴場部分だけの安全対策で、施設全体を見ると、平成10年のオープン後30年あまりが経過し、途中の大規模修繕を繰り返しながらも、老朽化が進んでいます。
- ・施設、設備の現状を整理するとともに、経営状況や将来需要、ライフサイクルコストを総合的に調査・分析する必要があると、その結果を市民に説明できないと、方針を決められません。
- ・責任のある判断を行うため、9月補正予算に計上しました。

Q

- ・将来コストについては、物価高騰などの影響もあって、非常に多くのお金がかかるという見通しもあります。湯楽里だけでなく、他の公共施設についても、今後、どのような見直し、検討が必要だとお考えですか。

A

- ・湯楽里は、指定管理制度を導入している施設です。令和7年度までは、そこまで指定管理料が大きくありませんでしたが、令和8年度以降に指定管理料が約4倍になりました。
- ・この3年ほどで、人件費や資機材の費用等が大きく上昇しています。
- ・指定管理制度を導入している施設については、公共で持つべきなのか、改めて考えることが必要だと思っています。
- ・このような公共施設の在り方について、附属機関を設けて検討をするための議案を、9月議会に提出します。
- ・どれくらいの費用がかかるのかについては、湯楽里で行う検討・説明の手法が、他の施設にも活用できるのではないかと考えています。
- ・施設は、老朽化しますし、永久に持つものではありません。維持管理費や大規模修繕費用がかかります。
- ・費用を数字で見せることができると、市民のみなさんも「これだけ税金をかけても使いたい」、「それだけ税金がかかるなら、廃止でよい」というのを考えやすいかと思っています。
- ・施設規模の大小もあるので、湯楽里のやり方も踏まえながら、公共施設総合管理計画を改定する中でも考えていきたいと思っています。

Q

- ・ウェルビーイング指標についてお伺いします。
- ・主観的指標について、前年度の水準を概ね維持しているとの説明でしたが、私としては、いずれの指標も微減していると受け止めました。
- ・主観的指標の中で、市長として特に大事だと考えている指標はありますか。

A

- ・各地区の自治振興会や区長会を回る中で、出席者に目を瞑ってもらい、主観的指標を11段階評価でお聞きしています。
- ・すると、役に就いている方は、主観的評価を平均よりも高く答える傾向にあります。自分が頼りにされる居場所や舞台があると、幸せ実感指標、主観的指標が高くなるのだと思います。
- ・人それぞれ、主観的に幸せになるものを高めていけば、客観的指標が多少低くても、幸せを実感できるのだと思います。
- ・主観的指標と客観的指標の2軸があり、両方とも高めていきますが、居場所と舞台に係る指標が上がると、ウェルビーイング指標が高まるのだと感じています。
- ・そのため、この年代にとっての居場所は何か、この年代のにとっての舞台は何かというのを把握する必要があります。
- ・そのような居場所と舞台づくりが、市の政策とマッチしていくとよいと思っています。

Q

- ・居場所や舞台を作る施策の方向性について、現時点で考えていることはありますか。

A

- ・市民のみなさんと集まるたびに、「越前市に欲しいものを1つ挙げてください」と尋ねています。すると、ショッピングセンターや大規模スーパー、複合遊戯施設など、物理的なものを挙げる方が大勢います。
- ・ただ、仮にそれらの施設ができたとしても、これらを求めている人は、市外にある、より魅力的な類似施設に行ってしまうのではないかと思います。
- ・先日話をした若者が、「18歳までは高校があるが、卒業すると居場所がない」と言っていました。
- ・8月13日の「若者トークフェス」の際に、市役所でライブをしたら、皆さん楽しそうに歌っていました。企画した人も「市役所でこのようなライブができるとは思わなかった」と言っていました。
- ・このように既存ストックを活用することで、ライブやダンスパーティーなど、若者がやりたいことができる舞台を提供できます。
- ・先日のサマーフェスティバルでも、だるまちゃん広場でレゲエバンドのライブショーやDJステージショーが行われました。このようなイベントを、年1回ではなく、月1回開催するということも考えられます。

- ・外国の方々にとっても、例えばサンバカーニバルを月1回開催すれば、それが舞台になります。
- ・音楽でも、スポーツでもよいですが、人と人がつながることで居場所や舞台ができ、幸せを実感することができます。漠然とですが、人と人をつなぐ場所と作りたいと思っています。
- ・今ある場所やモノを使って、そのような居場所や舞台を作るとというのが狙いです。この点を、県立大学の皆さんが直接インタビューして調査してくれます。大学や企業の協力を得て、年代ごとに意見を聞くことができるので、それを、総合計画を改定する際の参考にしたいと思います。
- ・すぐにできることがあれば、市役所職員も参画する「まちなかフラット会議」において、少しずつ取り組みたいと思っています。

Q

- ・市長は若者と直接交流しているという印象を、強く持っています。
- ・今後、このような場所に出向いて交流を深めたい、このような政策につなげたい、という考えがあれば、お聞かせください。

A

- ・市の政策は、市民のみなさんの幸せのために行っています。
- ・市民のみなさんと直接お話をすることで、何を求めているのかを知ることができます。
- ・区長会や自治振興会の中で、地域のみなさんとあいさつをする機会はありますが、もう少し時間をかけて、地域ミーティングの中でそれぞれの話や希望を聞きたいと思っています。地域の宝物や自慢に思っていることを教えていただいたり、地域のことをどう思っているのかを聞いてみたいと思います。
- ・若者との交流が目立っているのは、若者は地域活動や文化活動、スポーツ活動にあまり参加しておらず、あえて高校生や若者にターゲットを絞っているからです。実際は、全ての世代の方に会いたいと思っています。
- ・まだ半分ほどしか回れていませんが、職場ミーティングを通じて、市の職員とも会いたいと思っています。

Q

- ・らくまるパークがオープンしました。夏休み期間中ということもあり、予約フォームを見ると満員の日がたくさんあります。利用者数の状況を、どう受けとめていますか。

A

- ・県の補助金を活用して整備した屋内型の子どもの遊び場で、商業施設の中にあるものは、らくまるパークが初めてです。
- ・たくさんのお客さんが来る場所なので、安全を第一にするよう、事業者と担当部局にお

願いました。

- ・現地を見ていただくと分かりますが、たいへん楽しい施設になっています。
- ・立体迷路と遊び場フロアの2つがあります。
- ・遊び場フロアは予約制で、入場者数をコントロールできます。1 クールあたり、利用時間は1時間40分で、予約定員は80人。1日に4クールです。夏休み中は予約がたくさん入っていますが、8人の申込みがあっても、実際には4人しか来ない、ということもあります。そこで今は、一定の時間経過した時点で空きがあれば、当日も受け付ける形にしています。
- ・立体迷路は、予約なしで利用できます。1階から2階へ向かう一方通行での利用をお願いしています。
- ・最初は心配もありましたが、さすが遊具の専門家が作っただけあって、ケガもなく、みなさん楽しそうに遊んでいます。
- ・らくまるパークが越前市の名所となって、「一度行ってみたい」、「また行きたい」と、子どもたちの心を掴む場所になってほしいです。
- ・夏の暑い中、外で遊ぶのが大変になっています。屋内の涼しい場所で遊べるのは、とてもよいことだと思います。引き続き、たくさんの人に利用していただきたいです。

Q

- ・現代の寺子屋について、書道パフォーマンスで使用する和紙に、こだわりはありますか。
- ・また、12月に書道のユネスコ無形文化遺産登録が見込まれていますが、それに向けてのイベント、例えば、和紙と融合したイベントなどを予定しているのかをお伺いします。

A

- ・書道パフォーマンスで使用する紙は、越前和紙を準備しています。
- ・書道のユネスコ無形文化遺産登録に向けて、いま力を入れているのが、現代の寺子屋です。年間3回の開催を予定しており、3回目は、日本の「書道」のユネスコ無形文化遺産登録後に開催することを考えています。1、2回目とは趣向を変えたいと思っています。
- ・また、6月補正予算に計上しましたが、書のセットの開発を進めているところです。大河ドラマ『光る君へ』の題字を書いた根本 知(ねもと さとし)さんに監修をしてもらっています。筆や硯(すずり)、文鎮などをセットにしたもので、ユネスコ無形文化遺産の追加登録を機に、書に興味のある方に買っていただきたいと思っています。
- ・書だけでなく、越前和紙や越前打刃物にもポテンシャルがあります。ユネスコを活用しながら、たくさんある素晴らしいものを連携して発信してくと、すごい力を発揮すると思っています。